

Citation: Bailey EJ, Cates CJ, Kruske SG, Morris PS, Chang AB, Brown N. Culture-specific programs for children and adults from minority groups who have asthma. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 1. Art. No.: CD006580. DOI: 10.1002/14651858.CD006580.pub3.

CRG名: Airways

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 29 August 2008

Clib issue No.; N/U: 2009 issue 1, Update

背景: マイノリティの喘息の人は喘息アウトカムが不良であり、救急外来を受診するような喘息が多い。喘息の人を教育し、エンパワーメントするために様々なプログラムが用いられており、一定の喘息アウトカムを改善させることが先に示されている。少数派集団を対象とした慢性疾患に対するケアモデルには通常、単に疾患の症状だけでなく個人の文化的背景などにも焦点が当てられている。従って、マイノリティの人に対する文化的に特異な喘息教育プログラムが喘息アウトカムの改善に有効であるかどうか、実行可能であるかどうか、費用対効果が高いかどうかの疑問に答える必要がある。

目的: 一般的な喘息教育プログラムまたは通常ケアと比較して、文化特異的な喘息プログラムがマイノリティに属する喘息のある小児および成人に対して喘息関連アウトカムを改善させるかどうかを明らかにする。

検索戦略: Cochrane Register of Controlled Trials(CENTRAL)、Cochrane Airways Group Specialised Register、MEDLINE、EMBASE、総説論文および関連性のある論文の参照文献リストを検索した。最終検索は2008年5月に行った。

選択基準: マイノリティの喘息に罹患した成人または小児を対象に、文化特異的な喘息教育プログラムの使用を一般的な喘息教育プログラムまたは通常ケアと比較していたすべてのランダム化比較試験(RCT)。

データ収集と分析: 2名のレビューアが選択のためのデータを独自に選び、抽出し、評価した。必要な場合はさらなる情報について著者に問い合わせた。

主な結果: 4件の研究が本レビューの対象として適格であった。5歳から59歳までの計617例の患者をデータのメタアナリシスに含めた。文化的に特異なプログラムの使用は、喘息のある成人の生活の質スコア(統合した重み付け平均差(WMD)0.25、95%CI 0.09~0.41)、小児の喘息知識スコア(WMD 3.30、95%CI 1.07~5.53)を改善させるうえで、また1件の研究では小児の喘息増悪を軽減させるうえで(入院のリスク比0.32、95%CI 0.15、0.70)、一般的なプログラムや通常ケアよりも優れていた。

レビューアの結論: 現時点の限られたデータは、マイノリティの喘息のある成人および小児に対する文化特異的なプログラムは、すべてではないものの大部分の喘息アウトカム(生活の質、喘息知識、喘息の増悪、喘息コントロール)を改善させるうえで、一般的なプログラムよりも有効であることを示している。選択された研究数は少なく、報告されたアウトカムに不足があるため、今回のエビデンスは限られている。最終的にこの疑問に答えるために、さらに試験が必要である。

(監訳 林 啓一)

翻訳公開日: 09年5月13日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。